

藍の伝統を受け継ぐ

振興会は、毎年さまざまな活動を通して、次の世代へと伝統を伝えようとしています。

私たちは、そのうち、秋に行われた二つの活動取材してきました。

さっぽろオータムフェスト2008

大通公園を会場に行われた「さっぽろオータムフェスト2008」。その「札幌大通ふるさと市場」の一角に、北区と振興会が出展する藍染めのコーナーがありました。

ここでは、会員が制作した作品の販売や、藍染め体験コーナーがあり、多くの市民や観光客が来ていました。

会員の皆さんは、訪れた人の



藍染めの技法の一つ「板染め」を、木村さん(右)が体験者に丁寧に教えていました



来場者の一人にインタビュー！また、その様子を撮影しています

「染める回数で濃さが変わるんです」との富塚さん(左)の説明に「へー」と驚きの声が出た様子



藍染め講座受講者が制作した作品が展示されました。

会場には、巾着や浴衣など、心を込めた作品が並べられており、立ち寄った人たちが、手に取って鑑賞していました。

会員の富塚康子さんは「私たちがこの一年間、頑張ってきた作品を見てもらうことで、自分だけのオリジナルを生み出せる藍の魅力を知ってほしいです」と話していました。



振興会は、ほかにも藍染め講座の講師を務めたり、小学校で藍染めを体験してもらったりなど、多くの場で藍染めの魅力を広めています。

私たちは、活動に熱心な姿勢から、振興会の皆さんの伝承への強い意志を感じ取りました。そして、私たち若い世代も、伝統を受け継いでいかなければならないと思えました。

北区民文化祭 藍染文化伝承事業展

北区民センターで開催された「北区民文化祭」では、会員や

質問に答えながら、藍の魅力語り掛けます。訪れた人は「自然な色で、一年中使えるところが楽しいですね」などと、藍の魅力を笑顔で語っていました。会員の木村はる枝さんは「このように、いろいろな人に藍を楽しんでもらえてうれしいです」と話していました。

取材を終えて「私たちが伝えたいこと！」

今回の中学生広報記者をやってみて、北区で藍染めを若者に伝えようと頑張っている人がいたことを初めて知りました。そのために、さまざまな活動も行っていました。百聞は一見に如かず。これを見ているあなたも、ぜひ藍染めをやってみてください！

長田 将君 (北陽中1年)

初めて藍染めをやったときには、とても臭くていやだなと思っていましたが、化学染料ではなく、伝統のやり方で染めていることにとってもびっくりしました。しかも、藍染めは、模様や色が変わり、とても面白いので、ぜひやってみてください！

畑原理子さん (道教育大附属中1年)



本格的な取材は初めてで少し緊張しましたが、とても良い経験になりました。振興会の方たちの、藍染めに対する気持ちが強いことを知り、私たちも知ることから始めて、伝統を受け継いでいくべきだと思いました。

小林泰子さん (北辰中2年)

藍染めは臭くて汚いものだと思っていたけれども、やり方によって模様が変わるところなど、面白さもあって体験できて良かったです。臭くて大変な藍染めですが、一度やってみてください。

森川結華さん (新琴似中2年)

最初は戸惑いました。藍について書くとは知っていたものの、一体何をすればいいのだろうと。しかし、振興会の方の話を聞いているうちに、自然に伝えようという気持ちがわき出てきました。この記事で興味を持ってもらえたらうれしいです。

松田佳那子さん (北辰中2年)

作業をしていると、振興会の皆さんの強い思いが伝わってきました。藍は染めることも楽しいけれど、それはその裏にある努力によって支えられていることを学びました。自分で染めたバンダナは、私のお気に入りの一つです!!

安田クリスティーナさん (道教育大附属中1年)